

群 教 セ	F08 - 01
	令元.272 集
	生徒指導

自信をもって行動しようとする生徒を育てる 学級活動の工夫

—学校行事に関わる共感的なコミュニケーション活動を通して—

特別研修員 伊藤 鮎美

I 研究テーマ設定の理由

平成 31 年度学校教育の指針(群馬県教育委員会)では、全ての児童生徒に対し、自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の三点に留意し、生徒一人一人の自己指導能力を育成することが求められている。また、文部科学省国立教育政策研究所「生徒指導リーフ (Leaf. 18)」においても、「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という『自己有用感』は、自分と他者(集団や社会)との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価だからです」と述べられている。さらに、「『認められて (自信を持って) 育つ』という発想の方が、子供の自信が持続しやすい」ともある。つまり、人から認められたという経験が自信をもつ生徒を育てる上で不可欠なものであると言える。

研究協力校(以下、協力校)の生徒を考えても、自分自身になかなか自信がもてずに、自分の思いを人に伝えるという点では非常に消極的であると感じる。自信の無さから、学校行事や学習面においても、友達と関わりながら互いに高め合おうとする気持ちが希薄である。そこで、友達と関わらなければ一つのことを成し遂げられない学校行事を好機と捉え、行事前後の学級活動において生徒一人一人が自信を付けられるよう授業を工夫する。そのために、意図的に他者と関わり合う場と互いを認め合う活動を設定することで、学校行事はもちろん、今後の学校生活の中で自信をもって行動に移していける生徒を育成したいと考え、本研究のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

一人一人の自信を高められるよう、友達を認めながら関わる共感的なコミュニケーション活動を次の二つの手立てを実践しながら展開していく。

手立て1

日々の取組の肯定的評価に基づく行動目標の設定と達成度を学級で共有するための掲示物の作成

友達の努力点を認め励まし、それを前向きな言葉で伝え合うことで、今後の行動目標を自己決定できるようにする。そして、一人一人の行動目標を一つの掲示物にまとめ、学級全体で共有し達成したかどうかを日常的に確認できるようにすることで、常に目標を意識しながら学校生活を送れるようにする。

手立て2

互いに認め合う雰囲気高めるリアクションのルールづくり

自分の考えと友達の考えとを比較した上で、それぞれのリアクション(ハイタッチや拍手等)を起こすことで、自分と友達との考え方の共通点や違いを自分たちで判断し、その違いを好意的に受け入れられるようにする。そして、他者と違う見方や考え方も自信をもって堂々と表現できる生徒の育成につなげられるようにする。

手立て1に関しては、「平成31年度学校教育の指針」にある「生徒指導の3つの機能」のうちの一つである「共感的な人間関係」に直結するものである。互いの考えを交流させながら、互いのよさを学び合う場を設定する。自分の頑張ったことを自分のよさとして友達から認められることで自信の向上を狙う。

手立て2に関しては、思春期の中学生が自分の感情を表出させやすくするための手立てでもある。自分に自信がもてず発言できなかつたり、周囲の目が気になったりする生徒にとって、自分の考えを言っても否定されない状況を作り出せれば、緊張感も解け自己表現することへの抵抗感も少なくなると考えた。そして、手立て1にも関わる「共感的な人間関係」の構築にもつなげていきたい。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 年度当初に比べ、実践後に実施した学級の雰囲気と自己肯定感を把握する質問紙調査において、「クラスのみんなの前では、大変話しにくい」と回答する生徒の数が減少した。
- 普段の学校生活の中で、頑張りや期待を言葉にして伝え合う機会はほとんどないためか、友達と交流する場面で生徒はとて嬉しそうな表情をし、全員が今後の行動目標を立てることができた。その後も、一人一人の目標を集めた掲示物を見ながら、友達の努力や成長の様子を気にかけて、「(もう)目標が達成できたね」と声を掛けるなど、活動前に比べ、周囲と好意的に関わる生徒が増えた。
- 友達の考えの内容によって「ハイタッチ」や「拍手」などのリアクションを使い分けるよう指示したため、交流活動の場面では友達の考えをじっくりと聞き取り、協力して他の考えと比較して共通点や相違点を判断し、とても楽しそうにリアクションを取る姿が見て取れた。
- 実践1のマッチングゲーム以降、生徒が友達の日々の取組に目を向け始めるようになった。また、数回、帰りの学活において「ミニマッチングゲーム」を行ったことで、より様々な場面での友達の様子に目を向けられるようになった生徒が増えた。

2 課題

- 行事と関連した具体的な行動目標を立てるために、行事での同じ役割や同じパートで活動班の編成を行う必要がある。
- 共感的なコミュニケーション活動を広く行い、学年全体の取組としても実践を積み重ねていくことで、互いを認め合う集団づくりの素地を固められるようにする。
- 生徒は、日常的に他国の人との関わりが多い。そこで、自分とは違う点があるからといって、集団から排除していくことのないよう、多文化共生の視点からも、国の違いに伴う考え方や感じ方の違いを受け入れながら自他を尊重する姿勢の育成に引き続き力を注いでいく必要がある。

実践例

1 題材名 「実りある合唱コンクールにするために」 (第2学年・2学期)

2 本題材について

本題材は、中学校学習指導要領解説(平成29年告示)特別活動における学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」に関するものである。

協力校の合唱コンクールは、クラスで多くの練習を重ねて一丸となり臨む行事として、体育祭と並ぶ二大行事の一つとして非常に盛り上がる行事である。練習期間も長く、合唱コンクール実行委員や指揮・伴奏者などが中心になって練習を進め、生徒同士が意見を交わす機会が比較的多くなる合唱コンクールは、お互いの考えを主張し合ったり、譲り合ったり、考えを融合させ新たな課題に向き合ったりするなど、日頃の学校生活以上にお互いの考えに触れることができ、人間関係が大きく変化する場面としても指導の好機である。また、日頃から発言力のある生徒だけでなく、陰ながら練習の準備をする生徒や金賞のために自分のパートの練習に黙々と取り組む生徒など、目立たないところできらりと光る活躍をする生徒も毎年多く見られる。

そこで、合唱コンクールは、運動が苦手な生徒でも地道に努力することでクラスに貢献でき、その頑張りを他者に認めてもらう機会にもなり、また、普段は目にできない仲間の前向きな努力に目を向ける絶好の機会となると考える。これまでの練習を振り返る活動を学級活動の時間に設定し、その後の本番に向けて自分自身やクラスをさらによりよくしていこうと行動を変化させようとする生徒の育成につなげられると考えた。

本題材では、学校生活での頑張りをもとに互いのよりよい行動を期待し、伝え合う活動を設定することで、人のよさを見付ける・認める目を育て、他者に認められた喜びを今後の自己の成長や学校生活への活力にしようとする態度を育成し、自信をもって行動に移していこうとする生徒の育成を目指す。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目 標	互いに期待する行動を伝え合う活動を通して、合唱コンクールの練習における自分自身の行動目標を決めることができる。	
評 価 規 準	関心・意欲 ・態度	他者への尊重と思いやりを深めて、よりよい人間関係を形成しようとし、他者と協働して自己の成長に関する課題の解決に向けて悩みや葛藤を乗り越えながら取り組もうとしている。
	思考・判断 ・実践	自己の成長に関する課題を見だし、多様な意見をもとに自ら意思決定をすることができる。
	知識・理解	自己の成長に関する課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。
過 程	主な内容	主な学習活動
事前の活動	問題の 発見・確認	・アンケートに答えながら、合唱コンクールへのクラスの取り組み方が、学級目標の実現に向かっているかを振り返る。
本時の活動	解決方法等 の話し合い ・決定	・これまでの合唱練習を振り返り、友達へよりよい行動への期待を伝え合う。 ・友達からの期待を参考に、今後の行動目標を決定し、付せん紙に記入する。
事後の活動	実 践	・一人一人の努力がクラスをよりよくすることを自覚しながら、自分で決めた行動目標の達成に向け、合唱練習に取り組む。 ・掲示物となった一人一人の行動目標を学級全体で共有しながら、互いに達成を確認し合う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は次の手立てを用いて実践した。

手立て1

日々の取組の肯定的評価に基づく行動目標の設定と達成度を学級で共有するための掲示物の作成

班の友達に対し、普段の学校生活での努力点を評価した上で、合唱コンクールの練習において今後期待したい行動を考え、伝える。自分に向けられた期待を自信に変えて、合唱コンクール本番までの個人の行動目標を立て、今後の実践につなげられるようにする。そして、一人一人の行動目標を一つの掲示物にし、その後の生活において、学級全体で共有・達成の確認ができるようにする。

手立て2

互いに認め合う雰囲気をもつるリアクションのルールづくり

合唱コンクール練習に対する自分自身の取組を観点別に振り返る。班のメンバーから期待される行動がどの観点に対するものかによって班の友達と決まったリアクションをとる。自己評価が低かった観点への期待であればハイタッチを行い、自己評価が高かった観点への期待であれば班全員で拍手をして、互いにエールを送り合う前向きな雰囲気の中で活動が進められるようにする。

以上の二つの手立てを講じることで、自分自身がまだ頑張れる伸びしろを自覚し、友達から期待されたことで意欲的に今後の合唱練習に取り組めるよう、行動目標を自己決定できるようにする。

4 授業の実際

(1) 事前の活動

本番まで3週間の時点での合唱コンクールに向けての練習について、自分自身の取り組み方とクラス全体としての取り組み方を振り返るアンケートを実施した。個人の取組の振り返りでは、学級目標達成に向けて必要な行動がとれているかを振り返った。クラス全体としては五つの観点(練習態度・声量・曲への理解・金賞への思い・周囲への貢献)について点数を付けさせた。また、常時活動として、6月に学活の授業で行った「マッチングゲーム」を数回行ってきた。「マッチングゲーム」とは、学校行事(6月は体育祭)における互いの努力点を認め、リアクションを交えながらゲーム感覚で伝え合うという活動である。朝の学活において生活班の中で今日のターゲットを決め、その日の努力点を帰りの会において短時間で伝え合った(「ミニマッチングゲーム」)。

(2) 本時の活動

① クラスをよりよくするために自分の課題を見付ける場面

事前アンケートの結果をテレビ画面に映し出し、全体で共有した。最後には、現時点のクラスの合唱練習への取組をチャートの形で示すことで、合唱コンクール本番に向け、まだまだクラスとしての成長が必要であり、それは同時に一人一人が成長していかななくてはならないことを自覚できるようにした(図1)。その後、同様に、自分自身の取組をチャート式で表し、課題を自覚できるようにした。その際、生徒達は非常にスムーズにチャートカードに自己評価を記入していた。

② 共感的な姿勢で行う「ホーピングタイム」の場面

互いのチャートカードを見合い、仲間へ向けて日頃の学校生活での努力点に目を向けながら、合唱コンクール本番までにどういった行動を期待するかを互いに書き合い、伝え合う(図2)。互いに前向きになれるような書き方をすることを約束とし、メッセージの最後に「期待しているよ」や「・・・してくれると嬉しいな」などの言葉を付けるとよいことを伝えた。

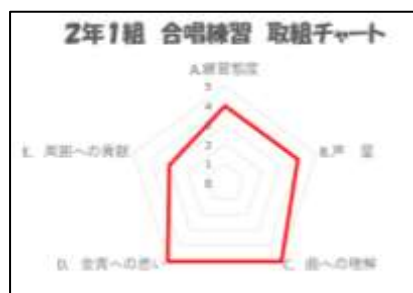


図1 クラスの合唱練習取組チャート



図2 仲間への期待を伝える様子

付せん紙に書かれた仲間への期待

- ・授業中もしっかり内容を覚えようと頑張っているから、どうしたら聴いている人に届けられるかを考えて歌っていききたいね。一緒に頑張ろう。
- ・数学の時にすぐに解き終わって教えてくれているから、他の人にアドバイスが出来ると思う。よろしくね。
- ・休み時間に楽しそうに笑っている時みたいな大きい声で合唱も歌ってくれるといいなあ。
- ・仲のよい人が多くて、人とすぐに仲良くなれる性格だから、仲間と良いところも直したいところも言い合って、全体の士気を高めてくれると嬉しいな。

伝え合った後、自分に向けられた仲間からの期待をもとにして、合唱コンクール本番までの自分自身の行動目標を決定し、緑色の丸い付せん紙に記入した(図3)。そして、授業の終末で一人一人の目標が書かれた付せん紙を集めて、ぶどうの形状に完成させることで、個人の目標が達成されて努力が実ると、一房のぶどうが完熟する。つまり、クラスの成長のためにと自己の活動意欲が高められるようにした(図4)。

③ 自分と他者との考えや思いの共通点や違いにリアクションを行う場面

「ホーピングタイム」で期待する行動を伝え合った際に、チャートカードで自己評価が低かった点へ期待を伝えたのか、高かった点へ期待を伝えたのかによって、グループでとるリアクションを変えた(図5、6)。



図5 互いにハイタッチする様子



図6 班全員で拍手する様子

(3) 事後の活動

緑色のぶどうの掲示物を教室内の目立つ場所に掲示し、目標が達成されたその時に上からピンク色の丸い付せん紙を貼り付け、だんだんと熟していく様子を全員で日々確認する。その際、自己判断でも友達に認め目標達成していることを知らせる形でもどちらでもよいことを伝えた。

その後の合唱練習は、各自がより積極的に練習に取り組み、合唱コンクール本番で金賞を受賞した。そして、学活の時間で「マッチングゲーム」を行い、それぞれの頑張りを認め合う活動を行った。

5 考察

一回目の授業実践において、互いの頑張りに目を向け、それを本人に伝える活動を楽しそうに行っていたため、本時の授業でも生徒達はとても意欲的に取り組んでいた。授業の感想にも、「みんなしっかり私のいい所を見付けてくれている事が嬉しかった」と書く生徒が多く、日頃は他人に対してなかなか自分の思いを進んで伝えられない生徒たちであっても、短学活での「ミニマッチングゲーム」やクラスを一房のぶどうで表す掲示物、そして今回の「ホーピングタイム」を通して、クラスの一員として周囲から認められることの喜びをこれからの生活の活力にすることが分かった。

また、「みんなのためにも」「全員で」「もっとクラスのメンバーと協力して」「この仲間で金賞を獲りたい」など集団を意識した言葉も感想欄に多く挙がった。それは、他者から認められ、自分に自信がもてたことと、どんな思いをもっていても否定されることがないリアクション活動の効果で、他者を受け入れる広い視野がもてるようになったと考えられる。

二つの手立てを講じたことで、温かい雰囲気の中、集団への所属意識を自覚しながら、自分に自信をもって、その後の活動への活力を高められたと言える。



図3 自分の行動目標を決める様子



図4 各自の目標を一つの掲示物に

2年1組 完熟大作戦～合唱練習編～

氏名 _____

1. 合唱練習に対する自分の取組を振り返ろう！

★実りある合唱コンクールにするために、期待していることを伝え合い、自分のできることを考えよう!!

()の合唱練習への取組チャート 理由を書こう！

A. 練習態度

B. 声量

C. 曲への理解

D. 曲への思い

E. 周囲への貢献

見たよサイン♪

2. グループの仲間のチャートを見て、これからもっと期待したいことを伝えよう！

★普段の学校生活でのその子の頑張りをもとに前向きな言葉で伝えよう♪
 (例：給食・掃除・係や委員会の仕事・部活動・休み時間の様子 など)

□□□(仲間の名前)さん

観点A~E

〇〇〇(自分の名前)より

□□□(仲間の名前)さん

観点A~E

〇〇〇(自分の名前)より

□□□(仲間の名前)さん

観点A~E

〇〇〇(自分の名前)より

3. ホーピングタイムをして…

〇〇〇(自分の名前)

合唱コンクール本番に向けて、
残り2週間の目標はこれ！
と思うものを書く(ボールペン)

緑色

4. 授業を終えて……

先生からのコメント
